

東日本大震災の被災地支援の拠点として、静岡県が「現地支援調整本部」を置いている岩手県遠野市の本田敏秋市長から、静岡県民に宛てたメッセージが静岡新聞社に寄せられた。

日本列島太平洋沿岸を中心に、未曾有の被害をもたらした東日本大震災から半年が経過しました。被災地では復興に向けて歩を進めている一方で、いまだがれきの撤去や家屋の清掃が進んでいない地域があります。

遠野市は、岩手県の内陸と沿岸を結ぶ中間に位置し、沿岸南部の地域に陸路で1時間、ヘリコプターで15分という立地環境にあります。このたびの震災で市役所本庁舎の

本田敏秋 遠野市長



静岡県民へメッセージ

倒壊をはじめ、一部の道路や建物が被害を受けたものの幸いにも人的被害が少なく、発災直後から沿岸部の支援拠点としてこれまで300の機関・団体などが滞在し、被災地の復旧・復興の支援活動に当たっています。

な被害を受けた被災地ではなく、「支援の拠点地」への派遣は、かつて岩手県のアドバイザーを務め、県内の実状をよく知り、防災にも精通した川勝平太知事だからこそ、英断と敬服しています。さらにその7日後には、市

を訪れ、力強い復興支援の決意と激励のお言葉を頂いたことが今も鮮明に思い出されます。また、先遣隊の状況把握に基づき、スズキの鈴木修会長兼社長の厚意により寄贈頂いた軽トラック10台は、被災地のがれきが残

頂きました。さらに、市内には静岡県ボランティア協会などが運営する「ボランティアセンター」が建設され、現在も静岡県民の皆さまを中心に多くのボランティアが滞在しながら活動しています。こうした静岡県の皆

復興へ大きな支えに

そつした中、発災後間もない3月19日、静岡県職員による先遣隊が全国のどの自治体よりも早く本市に入りました。甚大

内に「静岡県現地支援調整本部」を設置しています。あの日はまだ雪が降りしきる中、川勝知事率いる20人の救援隊が本市

る細い道で大活躍しています。同本部には、静岡県職員のほか静岡県内の市町職員の間が交代で派遣され、現在は25次隊が活動中です。皆さまには、まさに行政のプロによる被災自治体の行政支援のほか、全国から大量に寄せられた救援物資の仕分け作業などにも連日対応

な支えとなりました。これまでの支援に心より感謝申し上げます。被災地の復興は緒に就いたばかりです。本市の後方支援の取り組みも被災地支援の新たなモデルとなるよう、今後も静岡県民の皆さまとの絆を大切にしながら、市民一丸となって取り組んでまいります。

ほんだ・としあき氏 1947年、遠野市生まれ。神奈川大卒。岩手県総務部消防防災課長、商工労働観光部工業振興課長、企画振興部企画調整課長、久慈地方振興局長などを経て、2002年4月に遠野市長に初当選。合併により05年10月、新遠野市の初代市長に就任。通算で3期目。